

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2193200017		
法人名	メディカル・ケア・サービス東海株式会社		
事業所名	愛の家グループホームみずほ		
所在地	岐阜県瑞穂市横屋562-1		
自己評価作成日	平成21年9月29日	評価結果市町村受理日	平成22年2月18日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2193200017&SCD=320
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター		
所在地	岐阜県関市市市賀大知洞566-1		
訪問調査日	平成21年10月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

その人らしい生活を考え、ご利用者様の生活歴を知っていき支援をさせて頂いています。ご利用者様だけでは無く、ご家族様にも笑顔で笑い声が溢れるホーム作りを行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

前回評価と比べ、利用者との間隔がぐっと近付いた感がある。その大きな要因は、介護計画作成への利用者・家族の直接参加であろう。家族の都合を聞いて、ホームへの訪問日にケア・カンファレンスを実施し、関係する者が集まって意見を出し合っている。介護計画が充実したことによって、利用者の生活が潤いのあるものになっているという家族の賛辞も聞かれた。
 管理者は、職員の意見を吸い上げることに注力し、夜勤者に帯同して意見を聞いたりもしている。全員参加の懇親会(意見交換会)が実施されたが、夜勤者を参加させるために、統括ホーム長や他ホームのホーム長が応援に駆けつけ、夜勤者の代役を務めた。
 利用者を中心にした家族、関係者の一体感は見事である。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝・夕の申し送り時、ホーム会議に理念の唱和をし、その人らしいとは何か等、話し合いをしている。	ホームの理念は、「ホーム」、「利用者」、「地域」の3分野に分けてスローガン化されており、取り組むべき適切な方向性を示している。着任1年目の管理者は、「ホーム」の充実を自らの課題としている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事(横屋フェスティバル・ラジオ体操)などの参加や地域の喫茶店に出かけている。	地域との交流促進は積年の課題ではあるが、積極的に外へ出ていくことによって打開策を見出そうとしている。運営推進会議メンバーである区長から、地域イベントへの参加呼びかけがあった。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域貢献に関しては、実践できていない為、力を入れていきます。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会を通して、ホームの評判や、地域からの要望を知る良い機会とさせていただいている。うかがった貴重なご意見を基にホーム会議にて話し合う時間をもち、サービスの向上に活かしている。	定期的な運営推進会議が、2ヶ月毎に開催されている。家族は毎回参加があるが、利用者が出席したことはない。	運営推進会議の本来の目的を考えた時、利用者の存在を無視するわけにはいかない。利用者を巻き込んだ取り組みに期待したい。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村、社会福祉協議会の方から情報収集を行い、ホームの評判をきかせていただいている。内容によっては、改善策を検討し実施している。高齢福祉課や社会福祉協議会からの体験学習の受け入れなど、市町村からの依頼があればいつでも受け入れる準備がある。受け入れる準備を整えていくことで、サービスの質の向上へと繋がっていく。	困難事例があり、管轄の市だけでなく隣の市(社協)とも連携を取っている。広域連合とも調整が図られており、行政上の不安はない。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についてのマニュアルや、掲示を行い申し送り時など話している。	玄関の自動ドアは、内側から施錠されている。玄関にリモコン・スイッチが置いてあり、利用者も操作することができる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	誰でもが、目を通せるところにマニュアルを置き、身体拘束は行わなくても十分対応が出来ることを認識し、ホーム会議などで勉強会をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業は1名利用され、成年後見制度も1名利用されているため関係者とは常に連携をとり、スタッフに情報提供している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、わからない事が多く不安を抱いておられることを考慮し、繰り返し丁寧に説明をさせていただいている。項目毎に確認し、時間を経過しての疑問点や確認事項についても、遠慮なく質問して下さいと伝えている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様には、来訪時やお手紙で常に問いかけ、意見を表出しやすい雰囲気づくりを心がけている。施設内玄関に意見箱を設け、自由に意見・要望など受け入れられるようにしてある。さらには、第三者機関への連絡先のポスターを玄関に掲示している。	家族が意見を言い易い環境が整備されており、アンケートでも評価が高かった。訪問調査当日も、病院を退院して再利用される利用者の家族から相談があり、居合わせた統括ホーム長が親身に相談に乗っていた。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員は、管理者に、自分の悩みや思いを常に訴えられる関係性にある。また、月に1回のホーム会議においても、悩みを共有する時間を持っている。	全職員参加の懇親会(意見交換会)が行われた。夜勤者を参加させるため、統括ホーム長や他ホームのホーム長が応援に駆けつけ、夜勤者の代役を務めた。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	機会ある毎に訪問され気軽にスタッフに声をかけている。忘年会など食事会を開催している。また社長は会議等で前向きな気持ちで取り組めるように講話をして下さる。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム会議で研修を行ったり、外部研修の報告し共有している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じ会社のグループホームへ見学へ行ったり、行事のお手伝いに行き交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者様が入所される以前での機会においては、ホームでの生活など具体的に説明し、ご本人様からの質問にも丁寧に返答している。入所時や入所されて間もない時期には細心の配慮で対応し、要望をうかがい、受け止めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初めて相談を受けた際に、ご本人様とご家族様がどのようなことを困っていて、利用が適切であるかどうかをよく話しあっている。事前面接の際、丁寧に事細かく説明し、その後質問に対し不安が解消されるまで対応する。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居希望の際、ご本人様の状況を見極め、グループホームに適した入居対応者であるか、十分検討している。状況に応じた、情報提供をさせていただいている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は常にご利用者様の人格を尊重しつつ、ご利用者様の生活のお手伝いをさせていただき、共に生活を営んでいるという認識をもった関わりをしている。日々の活動を通し、円滑な関係性を築いている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時など、ご家族様との交流の時間をもち、ご利用者様を理解すると同時にご家族様の思いを理解したいと努めている。ご利用者様の状況を共通理解し、関わっていくなかで、双方が支えあっていける関係性を築いている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の活動意欲を触発する馴染みの物品を用意し、本人の経験や状況に応じて提供している。	利用者の昔馴染みの近所の人々の訪問がある。当初、名前が分からず訪問者ががっかりしていたが、利用者の口から名前が出て大喜びとなった。自身の畑に、草取りや野菜の収穫に行く利用者もいる。	「本人を知る」(アセスメント表の活用)の目的は、個別ケアの実践と、これまでの生活の継続支援にある。アセスメント表(生活歴)の完成が待たれる。
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の関係性を職員は情報共有している。利用者間の交流を職員は見守り、状況に応じて職員が介入し会話を助けている。会話の内容が共有ができていない時などは、職員が会話を繋げていく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去の際は、十分な情報提供を行い、ご家族とよく相談の上、契約内容に基づき決定している。退去後、ご家族様からの相談があれば、迅速に対応している。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は常に入居者様の思いや何をしたいか、誰に会いたいかなど、常に興味関心を持ち、教えて下さいという気持ちで会話から、引きだそうと努めている。また、人格を尊重し、利用者様本位の視点に立ち検討した援助を行っている。	個別ケアの実践を目指し、「本人を知ろう」の取り組みを展開している。職員は日々の利用者との交わりや、家族との会話の中から新たな情報(過去の生活歴、現在の意向等)を得ようとしている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前には、ご自宅にうかがいご本人様、ご家族様からお話をうかがっている。利用者様の生活歴、現在の生活スタイルを少しずつ把握したいと努力している。入所後においても、ご本人様、ご家族様から、どんな生活をされていたかを聴いている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	それぞれのご利用者様の生活リズムを理解し、その時々表情や行動などから察知し、心身の両側面からその方の全体像の把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃のかかわりの中から、ご本人様・ご家族様からの思いや意見を聞き、プランに反映させるようにしている。職員は意見交換を密にし、利用者様本位の個別サービスとは何かという視点からカンファレンスを行っている。	介護計画の作成時には、本人や家族が参加して、その時点で最も必要なケアを目標に定めている。見直し時には、職員全員がモニタリングを実施し、それらを参考にして介護支援専門員が方針を決定している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を用意し、食事・排泄・身体状況や毎日の様子や、その日のできごと、ご本人様の言葉などを記録して、個人ファイルに綴っている。職員は、常に記録に目を通し、情報の共有を徹底している。個別記録からも、介護計画の見直しを検討している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の心身の状況に応じ、業務改善を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアでハーモニカ、読み聞かせと慰問を受けている。また安心、安全のため利用者様の情報を家族の協力を得て提供している。消防署の協力を得て避難訓練、救命救急講習など受講している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者様とご家族様が希望されるかかりつけ医となっている。事業所の協力医の他、利用前からのかかりつけ医での医療も受けられるよう、ご家族様と協力し通院介助を行っている。また、状況に応じて、往診依頼をし、常に医療機関との連携をとっている。	ホームの提携医以外をかかりつけ医としている利用者が1名いるが、その利用者も提携医の定期的な往診を受診している。提携医の往診時には、必ず職員である看護師が立ち会っている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が常に健康管理をして記録に残し、主治医と連携を密にとっている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	お見舞いの際に回復情報や治療方針など伺い退院支援に努めている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時にも家族の意向を聞いてはいるが、状況に応じ主治医と家族とホームとで連携をとり本人との意向を伝えながら、支援している。	ホームで支援できるケアの限界を、利用開始時に説明している。説明に納得し、安心感を持っている家族も少なくない。ほとんどの利用者は、特養への併願をしている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員が消防署の協力を得て、普通救命講習を取得している。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て避難訓練を実施。避難経路の確認など職員、利用者共に行っている。	スプリンクラーの設置が決まり、安全面で大きく改善されることとなった。防災訓練では、夜間を想定した避難訓練も行われた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報保護法について職員は理解しており、家族、本人の希望など聞き、細かいところまで配慮している。	プライバシーの確保や個人情報の保護についてのマニュアルがある。この種の体系的な研修が実施されたことはないが、口頭で(OJTで)指導が行われている。	利用者のプライバシーに関しては、守備範囲が広く様々な場面で関連する項目がある。時間をとり、マニュアルを使った座学での研修を望みたい。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は利用者個々が要望など言いやすいように配慮し、管理者が時々本人とゆっくり話をし要望など聞いている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間など1日の流れはあるが、ご利用者様の生活リズムで起床、食事摂取、入浴、入眠などしていただいている。その日に外出の希望があれば、調整し柔軟な対応をしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の更衣は、ご利用者様に選択していただき、選びやすいような場面をもち自己決定していただいている。鏡に映し、一緒に選ぶなど、様々な工夫でご利用者様の意見をひきだしている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは季節を考えたものとなっており、ホームでご利用者様が栽培・収穫された野菜を食材に使用するなどしている。職員と利用者は、同じ物を同じテーブルを囲んで楽しく、家庭的な雰囲気ですべてを楽しんでいる。	利用期間の長くなり、高齢化や重度化が進んで食事介助が必要な利用者が出てきた。個人の咀嚼、嚥下能力に合ったキザミ食やとろみをつけた食べ物が提供されていた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量など毎日記録に残している。本社の管理栄養士の献立を基本にして、栄養バランスには管理者が栄養士でもあるため、色々相談しながら配慮している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は必ず口腔ケアの声かけをしている。介助の必要な方には誘導し、困難な方にはガーゼや綿棒で行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、パターンを確認しながらトイレで排泄できるように支援している。	自宅にいた時には尿意がなく、パットを使用していた利用者は、排泄パターンの把握と的確なトイレ誘導によって自立排泄が可能となった。管理者・職員は、排泄自立に適した環境作りにも腐心している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の症状から薬物使用に直結するのではなく、水分を多く摂ることや繊維質の多い食材を使用した料理の工夫、適度な運動などから、自然排便を促している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴希望日、時間をうかがい、入浴をしていただいている。入浴拒否をされる方に関しては、表情などから日時を考慮し、声かけや対応の工夫を行っている。	就寝前の入浴を考えたことがあったが、デイサービスを利用していた者も多く、夜間入浴の希望は聞かれなかった。ほとんどの利用者は、週に2～3回の入浴である。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人様の生活リズムへの配慮と共に、生活リズムを整えていく取り組みも心がけている。夜間の休息が十分とれるよう、日中の活動の工夫を行っている。夜間、眠れないときは、暖かい飲み物の提供や穏やかな雰囲気での会話をしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者全員の処方箋ファイルを確認できるようにしており、病名と薬の内容を理解しており、服用の確認も口頭と記録にて確認している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者様それぞれの得意な分野のお手伝いを依頼して行っていただいている。表情や取り組み方を観察し、できることを伸ばしていけるように取り組みをしている。行事やレクにおいても同様である。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人様の希望をお聞きし日常的に散歩や買い物などの外出の機会を持ち、季節を体感していただいている。ご利用者様それぞれのご希望もあるので、その方の興味・関心ごとに合わせた外出を支援している。	少しでも多くの外出機会を確保しようと、散歩を夕方時間帯に設定している。ホームの工夫・努力とは裏腹に、家族アンケートでは最も評価が低かった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段は事業所での管理を行っているが、外出時や、買い物・外食へ出かける際はご自身で支払っていただけるよう、お金を手渡している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者様の希望に応じて、電話や手紙をだせるよう支援している。電話の際は事務所内の電話を使用していただき、会話を楽しんでいただけるよう配慮している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある快適で穏やかな暮らしの場を提供できるよう取り組んでいる。ホーム内の飾りつけや食事のメニュー、行事などは季節を感じていただけるよう工夫している。	掃除が行き届いており、清潔で気持ちの良い共用空間が確保されている。家族のコメントでも評価が高い。通路の壁には、利用者の小作品(ぬり絵等)が貼られていた。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士、居室に集まって話をしておられる姿がみられる。玄関には椅子を置いて外の景色をみながら、過ごしておられることもある。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた日用品や家族の写真などを居室に持ってきていただき、安心して過ごしていただけるようにしている。日用品や衣料品、雑貨の全てにおいて、使い慣れた馴染みのあるものをもっていただけるよう依頼している。	地域の大学生が訪問した折に贈られた「感謝状」と寄せ書きの「色紙」を宝物のように飾っている利用者がいた。花火大会には、自身の居室が1番の見物席だと自慢する利用者もいた。ジグソーパズルの愛好者もいる。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員で相談し居室内やリビングなど環境整備に努めています。		

1 自己評価及び外部評価結果 (2F)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2193200017		
法人名	メディカル・ケア・サービス東海株式会社		
事業所名	愛の家グループホームみずほ 2F		
所在地	岐阜県瑞穂市横屋562-1		
自己評価作成日	平成21年9月29日	評価結果市町村受理日	平成22年2月18日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2193200017&SCD=320
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター		
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1		
訪問調査日	平成21年10月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

その人らしい生活を考え、ご利用者様の生活歴を知っていき支援をさせて頂いています。ご利用者様だけでは無く、ご家族様にも笑顔で笑い声が溢れるホーム作りを行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+-) + (Enter+-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>朝・夕の申し送り時、ホーム会議に理念の唱和をし、その人らしいとは何か等、話し合いをしている。</p>		
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>地域の行事(横屋フェスティバル・ラジオ体操)などの参加や地域の喫茶店に出かけている。</p>		
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>地域貢献に関しては、実践できていない為、力を入れていきます。</p>		
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>会議では外部から色々な質問や意見など頂きサービスの向上・改善やスタッフの取り組みにも活用されている。</p>		
5	(4)	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>広域連合、社会福祉協議会の方に連絡をとり、色々指導を頂いている。</p>		
6	(5)	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束についてのマニュアルや、掲示を行い申し送り時など話している。</p>		
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>誰でもが、目を通せるところにマニュアルを置き、身体拘束は行わなくても十分対応が出来ることを認識し、ホーム会議などで勉強会をしている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業は1名利用され、成年後見制度も1名利用されているため関係者とは常に連携をとり、スタッフに情報提供している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、細かく丁寧に説明し理解を得ている。またいつでも管理者の携帯電話でも対応できるようにしているためその後も対応している。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	どんな苦情でも、依頼でも、聞いたスタッフは報告し、ホーム長は書面にし、ホーム内にて話し合いをしている。また運営推進会議にて報告している。		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム会議等には意見、提案が活発に出るように日々職員とのコミュニケーションを図っており、退社時などにもかならず一言声をかけている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	機会ある毎に訪問され気軽にスタッフに声をかけている。忘年会など食事会を開催している。また社長は会議等で前向きな気持ちで取り組めるように講話をして下さる。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム会議で研修を行ったり、外部研修の報告し共有している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じ会社のグループホームへ見学へ行ったり、行事のお手伝いに行き交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	依頼があってから、何度か連絡をとっている。アセスメントをし現状を把握し本人の言葉で色々聞き不安を軽減できるようにしている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の相談を受けた時、ご家族の思い等をよく聞き不安、心配なことなど時間をかけて聞き、一例など話し不安など軽減できるようにし、信頼関係を作るように努力している。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居希望の相談を受けた時には、本人にとって一番必要な支援はなにかを考え、情報収集し相談する時間を作るようにしている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者と家族のような関係を保つ努力をし、寂しいときはゆっくり時間を作って話を聞き、嬉しいときはスタッフも自分の事のように手をとって喜んでいる姿が見える。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は面会時 ご家族と情報を共有し、一緒に本人を支えていけるように努めている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力をえて、連絡して頂き、友人と外出したり、電話で長話をされている。また馴染みのある物をホームでも使用されている。(畑仕事に使うくわなど)自分の畑に行き野菜を収穫することもある。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様一人ひとりの性格、状況等を把握しており、利用者同士の関わり合いは見守り、状況判断し必要な時は間に入り良い関係を保てるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時には必要とされる情報を提供し、家族より相談事など連絡があれば敏速に対応している。また入院されたなど聞いたときは顔をだすこともある。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望や意向を聞きだすために、常に会話をしていつでも気軽に言える雰囲気を作っている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント時に今までの仕事、結婚などの生活歴をなるべく細かく情報収集し、現在も面会時に懐かしい話など家族に聞かせていただき収集を日々している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の日ごとの行動や身体状態を観察しスタッフに情報提供している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア・カンファレンスを開き日ごろ関わりのあるスタッフの意見を聞いたり、家族の要望、本人の要望など取り入れて、個別サービス計画を作成している。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画によりケアを実践し、生活記録、身体状態に記録を残し、スタッフはすべて目を通し共有している。個人記録も参考にし介護計画を立てている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の心身の状況に応じ、業務改善を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアで三味線、オカリナと慰問を受けている。また安心、安全のため利用者様の情報を家族の協力を得て提供している。消防署の協力を得て避難訓練、救命救急講習など受講している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医療機関を主治医に希望される方がほとんどであるため、常に異常が見られた時は連絡し指示を仰ぐことになっている。また他医療に受診を希望される方はその都度家族と連絡をとり支援している。		
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が常に健康管理をして記録に残し、主治医と連携を密にとっている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	お見舞いの際に回復情報や治療方針など伺い退院支援に努めている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時にも家族の意向を聞いてはいるが、状況に応じ主治医と家族とホームとで連携をとり本人との意向を伝えながら、支援している。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員が消防署の協力を得て、普通救命講習を取得している。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て避難訓練を実施。避難経路の確認など職員、利用者共に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報保護法について職員は理解しており、家族、本人の希望など聞き、細かいところまで配慮している。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は利用者個々が要望など言いやすいように配慮し、管理者が時々本人とゆっくり話をし要望など聞いている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務に利用者をあわせるのではなく、利用者のペースにあわせて業務をこなすことを念頭において一日をすごしている。時間がゆっくり進んでいると外部の方からよくいわれている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者の希望で洋服を購入するため外出同行したりしている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームの畑で育った野菜を利用している。片付けなど一緒に行動している。入居者が困難な方を助け合いながらやられる姿がみられる。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量など毎日記録に残している。本社の管理栄養士の献立を基本にして、栄養バランスには管理者が栄養士でもあるため、色々相談しながら配慮している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は必ず口腔ケアの声かけをしている。介助の必要な方には誘導し、困難な方にはガーゼや綿棒で行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、パターンを確認しながらトイレで排泄できるように支援している。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維の多い食材を使用する。また水分を多く摂取していただくように工夫したりして、最初から薬に頼らないようにしている。その後は主治医の指示をうけている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴希望日、時間をうかがい、入浴をしていただいている。入浴拒否をされる方に関しては、表情などから日時を考慮し、声かけや対応の工夫を行っている。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人様の生活リズムへの配慮と共に、生活リズムを整えていく取り組みも心がけている。夜間の休息が十分とれるよう、日中の活動の工夫を行っている。夜間、眠れないときは、暖かい飲み物の提供や穏やかな雰囲気での会話を行っている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者全員の処方箋ファイルを確認できるようにしており、病名と薬の内容を理解しており、服用の確認も口頭と記録にて確認している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者様それぞれの得意な分野のお手伝いを依頼して行っている。表情や取り組み方を観察し、できることを伸ばしていくような取り組みをしている。行事やレクにおいても同様である。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人様のその日の気分や体調に合わせて、天候も考慮し、日常的に散歩や買い物などの外出の機会を持ち、季節を体感していただいている。ご利用者様それぞれのご希望もあるので、その方の興味・関心ごとに合わせた外出を支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段は事業所での管理を行っているが、外出時や、買い物・外食へ出かける際はご自身で支払っていただけるよう、お金を手渡している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者様の希望に応じて、電話や手紙をだせるよう支援している。電話の際は事務所内の電話を使用していただき、会話を楽しんでいただけるよう配慮している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	暖かい生活空間に配慮し、季節がわかりやすいように、季節にあった掲示物を考えている。また季節を味わっていただけるような食材で献立を考えている。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士、居室に集まって話をしておられる姿がみられる。玄関には椅子を置いて外の景色をみながら、過ごしておられることもある。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にはなるべく新しい家具などではなく、自宅で使い慣れているものをもって頂くようにしている。また位牌や家族の写真などもあればもってきていただいている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員で相談し居室内やリビングなど環境整備に努めています。		

(別紙4(2))

事業所名 愛の家グループホームみずほ

目標達成計画

作成日: 平成 22年 2月 13日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	36(14)	利用者のプライバシーに関しては、守備範囲が広く様々な場面で関連する項目がある。時間をとり、マニュアルを使った座学での研修を望みたい。	ホーム内研修で、プライバシーの確保や個人情報の保護についての研修を行う。	2月のホーム内研修でプライバシーの確保や個人情報の保護についての研修を行います。	1ヶ月
2	4(3)	定期的な運営推進会議が、3ヶ月毎に開催されている。家族は毎回参加があるが、利用者が出席したことはない。	利用者様も参加した運営推進会議を開催していく。	2月の運営推進会議に利用者様に参加して頂きます。	1ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目の を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。